

云、檳榔子、一名、薦子。上音

〔箋注倭名類聚抄十〕千金翼方、證類本草中品有「檳榔子」不載。一名、證類本草引陶隱居云、小者南人名、薦子、則知薦子之名出陶注也。又依陶注、薦子是檳榔子之小者、非卽檳榔子之別名。源君引爲一名誤。天智紀、狹井連檳榔同訓。古事記檳榔之長尾宮、續日本紀若犬養宿禰檳榔亦其讀應同。按阿知末佐蓋蒲葵之和名。檳榔、櫻樹、蒲葵、其狀相似、故多誤混。以櫻樹蒲葵爲一物、上文詳之。又上林賦李善注引仙藥錄云、檳榔一名櫻。又混檳榔櫻爲一物、故輔仁以阿知末佐訓檳榔。續日本紀檳榔扇、齋宮式檳榔葉及檳榔毛車皆謂蒲葵。今俗亦呼蒲葵爲昆良字、對馬呼吳波。源君蓋知其不同、故不從輔仁所訓也。

〔饅頭屋本節用集比草木〕檳榔子

〔書言字考節用集生植〕大腹子タクラン本草、其木與梔榔相似、莖葉根幹小異耳。檳榔樹ビンランジユ其實曰：

〔古事記傳二十五〕檳榔と云物は、和名抄に、兼名苑云、檳榔葉聚樹端有十餘房、一房數百子者也。本草云、檳榔子、一名薦子とありて、和名は見えず、續紀卅四に、檳榔扇齋宮式年料供物の中に、檳榔葉二枚、戸坐所料など見ゆ。又檳榔毛車と云あり、小右記に、長和三年十二月廿五日、左大臣命云、檳榔太難得、諸卿云用唐車、汝未聞此議如何者、答云、古檳榔毛車、毎年不改調、隨損壞改替有何事乎、依每年改張爲難得物、至唐車不甘心とあり、或人云、びりやう毛の車などのびりやうは、蒲葵と云物なり、其をびりやうと云は、比闇の音なり、然るに比闇は、今云しゆろの木にて檳榔には非るを、古にも誤てしゆろの木を蒲葵とせしことありしに依て、此國にても、蒲葵を比闇として、びりやうと云、檳榔字を用ひ來れるなりと云り、今思に、此説さもあるべし、然れども、びりやうを比闇の音と云ふは、非ず、びりやうは、びらうとも云れば、卽檳榔字音なり、和名抄にも、檳榔、此間音曼朗と云り、さて古に阿遲麻佐と云し物は、檳榔字をば當つれども、實は檳榔か蒲葵か定めがたけれども、中昔